

# 滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和3年度 第1回)

- 日 時 令和3年7月9日(金) 14:00~15:40
- 場 所 WEB 会議
- 出席委員 山岡委員(部会長)、中村真理委員(副部会長)、後藤委員、東委員、河岸委員、岡戸委員、築地委員、中村勝弘委員
- オブザーバー (株)JR 西日本コミュニケーションズ
- 議題
  - (1) 介護のしごと魅力発信事業について
  - (2) 令和4年度の取組について

## 1. 挨拶

### 【事務局】

- 昨年からの新型コロナウイルス感染症の流行により、様々な制約や業務の負担が増す中であっても、介護現場の第一線で様々なご努力をいただきながら、緊張の中で、介護を必要とする方々の生活、そしてご家族の生活を支えていただいております、改めて感謝申し上げます。
- この3月に「レイカディア滋賀 高齢者福祉プラン」を改定したところであり、今後3年間、このプランに基づき、「団塊の世代」がすべて75歳以上となる2025年、また、「団塊ジュニア世代」が65歳以上となる2040年に向けて、本県でも各地域の実情に応じたサービス基盤・人的基盤の確保や、「支え手」「受け手」という関係を超えて地域を共に創るという地域共生社会の実現を目指して参りたい。
- 本日の会議では、魅力発信事業を動かしていくので、その報告と、来年度の取組についても忌憚のないご意見をいただくとともに、ワクチン接種状況等、介護業界の情報も共有いただければと思う。

### 【各委員自己紹介】

## 2. 部会長および副部会長の選任について

- ・ 河岸委員から山岡委員を部会長に推薦する旨の発言があり、出席委員全員異議なく山岡委員を部会長に互選
- ・ 山岡部会長が中村真理委員を副部会長に指名

### 【部会長】

※委員名簿と議事内容の概要の公開について、昨年度と同様に県のホームページでも掲載することについて確認。異議なし。

## 3. 議題(1) 介護のしごと魅力発信事業について

※資料2により事務局およびオブザーバーから説明

### 【委員】

○起用予定の人気YouTuberの方は知らなかったが、介護以外の内容で発信されているのか。

### 【オブザーバー】

○起用しようとする理由は、滋賀県在住で親和性が高いためである。高校生、大学生向けのコンテンツを発信しているコンビである。ゆるキャラグランプリでの活動やショップ展開、コンビニとのコラボなどで活動されている。

○YouTubeチャンネル登録数やTwitterのフォロワー数も多く、発信力のある方と考えている。

### 【事務局】

○事務局もこの方は初めて知った。拝見した限り、介護に関連する方ではない。体験などを面白く紹介されるスタイルの中で、若者に介護の仕事のことを紹介いただくと想定している。

### 【委員】

○企画を見ていると大きな取組になりそうで、その具体も見えてきた。団体内にもアピールできるので、社会福祉士会としてもどのように取組んで行くか協議していきたい。

### 【委員】

○イベントや他の取組の概要も賛成するし、このまま進めていただければと思う。

○SNS等で発信して行かれるときにも、当初から若者に発信したいと考えてきたので、そこを中心に押して行っていただきたい。

○老健協会は、医師や看護師、セラピストなど様々な職種と組んだチームケアをしていくための介護職員のスキル向上にも取組んでいる。そういう中での仕事に対するやりがいや、あるいはそれに繋がる内容も取り入れていただければと思う。

### 【委員】

○この案を見てすごいと思ってびっくりしている。

○YouTuberのように新しく、若い方に発信できるのは良いと思う。若い方にケアを身近に感じていただきたい。

○他方、ヤングケアラーも問題になってきている中で、無理なく生活と両立できて楽しめるような介護にもなっていけたらと思う。

### 【副会長】

○介護福祉士会もこれまでも、介護の日に相談会や、バリアフリー商品の紹介、レクリエーションなど様々な魅力発信に取り組んできたが、苦戦していたのが正直なところ。ターゲットが絞り切れていなかったことや、集客をどうするか悩んでしまったところがあったと思う。

○YouTuberはマニアックな世界でもあるが、活用いただくということで嬉しく思う。

○介護福祉士会の皆さんも頑張っておられるので、できる限り多くの介護現場の方たちにスポットを当てていただきたいと思う。YouTuberとコラボするなど、介護職員にスポットが向くような形でお願いできればと思う。

### 【委員】

- 今回ひとつ大きなポイントとして、「しがけあ」という言葉と思う。我々は「しがけあ」という言葉をずっと背負っていくということになる。「しがけあ」で良いのかなと率直に思った。ただ、よくよく考えると「しがけあ」になるのかなとも思う。「しがけあ」の字体などの表現も広告のプロとして考えていただいたと思う。まず、それを我々が抵抗感なく受け入れられる状況は大事と思う。
- もう一つ、柱であるケアニンの部分は、わかりやすく、既に浸透して影響力のあるものを中心に据えているので、実現可能性が高いと思う。2023年のスピンオフ映画のところは、本当にこんなことができるのか、どのようにできるのかイメージができていないのが感想。
- 写真撮影と Instagram 活用の取組については、若い女性の視点でケア現場に行って撮影するという視点はすごく良いと感じていた。その方たちは、普段、介護現場に踏み入れない方たちであり、何を感じてくれてどこを魅力に感じて写真を撮ってくれるのかが、良いと思っていた。
- 与件の整理は、非常に的確な言葉で捉えていただけており、「介護が重要な仕事ではあるがどこか他人事な存在」という部分は、まさにそのとおりと見ていた。

#### 【委員】

- 影響力を持っておられる方々を起用することは、必要なのだろうと思う。ただ、それを使えばそこで終わるのかというと、そうではなくその先の方が大事と思う。
- 魅力の中には、真実というか本質とか大変なところも多いと思うし、また、そういったものがターゲットに伝わったとき、あるいは伝わって理解してターゲットが職場に行ったときに、事前に発信されていた魅力や大変さが、現実と一致していることが大切と思う。
- 求職者が事業所の見学や面接に行かれた際には、事業所はその現実の部分必ず説明されるはずなので、魅力発信事業はそこに誘導するものとなればと思う。
- 例えば、ちゃんと生活できる、家も持てる、車も買える、キャリアアップして給料増えた、経済的安定感がある、3Kと言われているのは実際そうだったけどだんだんクリアできるようになった、というようになっていくのが良いと思う。もし良いことだけが伝わっていくとすると、どこかで止まってしまわないかと思う。あるいは、ある施設長がおっしゃっていたような、「お父さん、お母さんのおむつを換えるのは君たちだ」みたいなメッセージも必要なのではないかなと思う。

#### 【委員】

- 昨年度の議論で、アニメーション制作の話も出ていたが、この企画に置き換わるのか。

#### 【事務局】

- 今回のプロポーザルの募集において、アニメーションを活用した企画を必ず入れるように条件を付けた。各社でアニメーションの企画があり、オブザーバーの企画ではブイチューバーがそれにあたるが、アニメーションを活用するということと、加えて既に影響力ある存在を活用することを組み合わせた提案であった。

#### 【委員】

- 2023年の映画化が滋賀県を舞台に実現すれば、エキストラでここにいる皆が出られたら良いなと思っている。

### 【委員】

○まず確認だが、今日の報告はどのような段階か。修正や作り直しができるかどうか。我々の発言が反映されるか。

### 【事務局】

○契約の交渉先としてオブザーバーに決まった段階。一斉募集においてオブザーバーから提出された企画提案を基に、契約の仕様として具体化の協議をしている最中である。

### 【委員】

○まず、非常に丁寧に作っておられるプランであると感じた。

○一つ目。複数年のプランを考えておられるので、その収穫期に至るまでにオブザーバーが面白がってきちっとやっていただけるかどうか、一番大事なところと思う。そういう意味で管理体制に関して、オブザーバーのプロデューサー役の方が軽々に人事異動で他のプロジェクトに移ることが無いようにしていただくことが、大切と思うので是非よろしく願いたい。この際、滋賀に移住するなりどっぷり浸かってやっていただけたらと思う。

○二つ目。オブザーバーは広告会社なので致し方ないかなとは思いますが、今回の依頼つまり募集要項にどう書いてあったかによるが、我々の部会は魅力発信という言葉にはなっているが、実際は介護分野に若い人材に入って来てほしい、もっと言うと就職させたいという目標あるいは目的がある。つまりそういうアウトカムが欲しい。こういう媒体にこういう様に露出しますという内容に止まっているので、これをどう収穫するのかというストーリーにまだたどり着いていない感じがする。もちろん簡単なことでも、広告だけで達成できる問題でもないが、そこに道筋を付けられるようなひと工夫が欲しいと思う。それはある意味、広告会社にとっては大きなチャレンジなので是非よろしく願いたいと思う。

○三つ目。それを考えるうえで、滋賀でこの取組をされるということの意味は大きくて、オブザーバーにとって介護の人材獲得に向けたプロモーションを本格的におやりになる、あるいは県域単位でというのは、初めてされることになるので、滋賀のポテンシャルを上手に活用していただくことが必要と思う。滋賀は全体の平均として所得水準も高く、高齢化率も低いが、一方で課題先進県みたいな部分もある。若い人材がしっかりいるが、若い人材を欲しがらる業界もいっぱいあるというところで、雇用市場として介護業界にやさしくない状態になっている。そこを突破するような絵を描いてほしいということになる。滋賀の経済状況とか、何よりも障害者福祉に関して滋賀は日本で最初に本格的に取り組んだ伝統を持ったエリアであり、福祉とえば滋賀なので、そこを一度勉強していただいて、滋賀だからこれをするのだという絵を描いていただく必要があると思う。「しがけあ」というスローガンをどのように浸透させていくか、つまり滋賀県人にとって自分事にしていくということ。そこが最大のテーマだと思うので、是非面白い取組を期待している。メディア露出だけでは不十分と思う。

### 【事務局】

○確認のためにお伝えしたいのが、複数年を見越した中期的な提案を募集したが、契約自体はあくまでも単年度で、令和4年3月31日まで。中期的な提案をいただくことによって、初年度にあたる取組としてふさわしいのかどうかを判断するためにそのように募集した。

○また、人材確保という目標はあるものの、そのアウトカムのところまで今回のプロポーザルでは求めておらず、広く発信するというところを外部に委託するという。その発信する中身はオブザーバーにおいて全てを持っているわけではないので、介護業界はオブザーバーに介護の仕事に関することを理解してもらって、オブザーバーから広めてもらうという関係と考えている。事業を進めて行くにあたっては、事実に基づく発信が大事であり、介護業界に対して様々な情報収集や取材を申し込んでいくので、各団体においてご対応をお願いしたい。

#### 【部会長】

○オブザーバーの企画に合わせた形で、各団体の催しを考えていくということによいか。

#### 【事務局】

○イベントについては、各団体で考えていることを実際に進めていっていただいて、具体化されていく中で、オブザーバーの企画であるトークショーなどと組み合わせることも考えていけると思う。読み物コンテンツなどの取材先の選定の協力もお願いしたいと考えている。

#### 【部会長】

○連合会の役員会における検討では、2年前はシニアファッションショーで考えていたが、団体の自主財源により実施するため見直しを行っており、コアメンバーでワーキングチームを作って議論し直している。アイデアとして、映像や写真による発信とトークイベントの組み合わせなどが出っていたので、オブザーバーの企画との連携を考えていきたい。

○各団体におかれても、バラバラでするよりもオブザーバーの企画と連動する形で、イベントを成功させるために一緒になってやっていけたらと思うので、各団体に資料持ち帰っていただいて議論していただきたいと思う。

#### 【事務局】

○「しがけあ」については、キャッチフレーズを作ることによって同じ方を向いて取組んで行くという提案であり、事務局もそのように認識している。無理にでも取り繕った魅力を打ち出していくということではない。

○言葉そのものの選択については、委員のおっしゃるように皆さんの意見を聞きながら進めて行く必要があると思う。

#### 【部会長】

○修正はいつまで可能か。

#### 【オブザーバー】

○特設サイトを10月頃にアップしようと予定しており、そのトップページにロゴなど掲出するので、制作スケジュールの兼ね合いを確認しながら相談したい。基本的には8月ごろからサイトの企画や構成を考えていかないと10月に間に合わないので、なるべく早くお願いしたい。

#### 【事務局】

○皆さん「しがけあ」というワードはいかがか。

**【委員】**

○一択だと議論しにくい。

**【委員】**

○ここで何を表すべきなのかを考えたときに、ぐるぐる回って結局、滋賀県のケアしかないかなというところに行きついてしまう。一瞬、何だろうとなるが、どういう意味合いを持った言葉なのかさえ自分の中で納得できれば、しがけあしかないかなという感じ。

**【オブザーバー】**

○しがというワードを入れることで、県民の皆様の自分化の意識に繋がると思っているので、しがというのは入れたほうが良いと考えている。それに合う組み合わせとして、けあというワードがしっくり来ると思っている。

**【委員】**

○しがをつけるとなると、そんなに選択肢ない感じになるね。

**【オブザーバー】**

○滋賀のオリジナルが伝わりやすいと思う。

**【委員】**

○この部会で承認したら、我々はこれしか無いという発信をしないといけない。我々が違う方向を向いて発信すると良くないので、部会のメンバーは、これが一番良いんや、と発信していかないといけないと思う。

**【委員】**

○委員のご指摘は重要なことと思う。

**【部会長】**

○あと2つほど候補を挙げていただけるか。一択だと難しいし、我々もここで中々浮かばないので。

**【事務局】**

○元々、秋に向けて部会開催を数回予定していることと、会議以外でも意見を聞いていけるので、その中でやっていきたいと思う。

#### 4. 議題（2）令和4年度の取組について

※資料3により事務局から説明

**【委員】**

○若者をターゲットに継続していくのが良いと思う。もちろん親世代等へのアピールも大事と思

うが、今年度だけでは足りないのかなと思う。各層へ発信できるのはベストと思うが、一番の中心は若者かなと思う。

- イベントの北部開催について、協会の研修などでも北部からは北部開催を希望されるので南北で開催している。今年度のイオンモール草津開催がどのようになるかまだ分からないが、集客の観点からは、やはりイオンモール草津と思う。
- この会議の出席だけでは先まで見通す余裕は中々ないし、答えがないので良い案も提案できないのが現状。
- 今年度の取組が成功したなら、全く同じような形ですること、ありと思っている。大きく変えると大変かなと思う。

#### 【副部長】

- イベント会場について湖北の検討もしていただければと思う。
- 前回、委員が交通のことについておっしゃっていたが、どこの会場に関わらず、運転免許持っていない方も参加できるようなことも検討いただきたい。

#### 【委員】

- ターゲットを大きく変えないことは、賛成する。たしかに親世代も大事だが、若い方たちに経年的に伝えていくことが大事と思う。
- イベント会場について、湖北だけでなく甲賀、高島なども思い浮かぶが、それぞれのところでその地域の人たちが参加しやすいようなことを考えて実施して、参加の経験者を一人でも増やすことも良いかなと思うので、琵琶湖一周するのも悪くないと思う。
- 「しがけあ」について、「けあ」はカタカナにして組み合わせた方が、イメージ出ると思う。

#### 【委員】

- 県内全体で展開していければ良いと思うが、1回目から続いて同じイベントであるということが分かるように展開できればと思っている。
- ターゲットは継続して若者に絞ってとっていて、絞ってやらないと中々全体的には難しいのではないかなと思う。
- 最終目標は県予算0円という言葉で、自立を目標に描かれているのかなと思うが、そこに至るまで県内を網羅できれば良いのではないかなと思っている。

#### 【部長】

- 最終目標については、協力者を募ってというイメージだったか。

#### 【事務局】

- 協力者が現れるような状況にもっていけたらと考えている。

#### 【委員】

- 敢えて堅実的なことを言うと、イベントや企画は1回目を経て精度を上げていこうとすると、同様に3回くらい実施しないと、きちっとしたものは作り上げられないと思うし、関係者も相当大変と思う。イオンで介護のイベントやっていると認識も、3回くらいしないと浸透し

ないのでと思う。ある程度形が出来上がった段階で、展開していかないと大変ではないかと個人的には思う。

**【部会長】**

○オブザーバーにおかれては、中期的な取組として、1年目に創出、2年目に発信という形で企画されているが、具体的なイメージはあるか。

**【オブザーバー】**

○今年度は「しがけあ」というワードを立ち上げた初年度となるので、まずはそのワードを広くお披露目する。発信期では、ケアニン製作チームとの連携強化によって、より幅広く訴求していき、将来的には教育現場での活用などにも展開していくという案である。

**【部会長】**

○その他、全体を通じて質問等あるか。

**【副部会長】**

○イベントについて、各ブースの内容確定はいつまでか。

**【事務局】**

○2月の開催を基にすると、年明けに告知となるので、それまでに想定しているが、オブザーバーにおかれてはどうか。

**【オブザーバー】**

○年明け前に告知すると、お客様の認識が薄れてしまうので、年明け後が良いと思っている。それに向けて進めて行ければと思う。

**【事務局】**

○主にイベントのために連絡調整会議を持って、定例的に打ち合わせていきたく、各団体にメンバーの照会を依頼するので、よろしく願いたい。

**【委員】**

○現在、就職説明会にたくさんの若者に来ていただくために、滋賀県介護・福祉人材センターの中村委員と学校に訪問しに周っているところ。滋賀県国際介護・福祉人材センターの私は外国人介護人材の観点から周っているが、この魅力発信で実施するイベントのチラシを持っていくなど、いろんな学校に対しても魅力を発信していこうと考えているので、我々両センターも活用していただきながら、魅力発信事業を進めていただければと思う。

**【事務局】**

○その他、見直し検討中の写真撮影とInstagram活用の取組について、各事業所に訪問して中に入って写真撮影する企画であるが、コロナ禍の観点から取材させていただける状況にあるか教えていただきたい。



**【委員】**

○判断は分かれると思うが、何のために入り込むかという目的を考えると、できるだけ協力したいところもあると思う。

**【委員】**

○施設で言うと、今まで実習を全て止めていたが、8月から再開することになった。医師と話した中で、利用者や職員はほとんどワクチン接種終わっているの、部署によっては実習生を受け入れようとしている。やはり実習生を受け入れないと育成できないので、中々止めるわけにはいかない。

○委員の言われるように、協力していただける施設もあると思う。

**【委員】**

○撮影者がどういう形で施設に入って、どういう動きをするかを考えたら、他の施設の今もそうだと思うが人材確保の発信のための撮影もしてもらったりしているので、その延長で考えたら、大人数でもないの、リスクに対応できるし、そのあたりを施設にも伝えられれば理解を得られると思う。

○委員が言われたように、当施設もほぼワクチン接種が終わっている。

**【部会長】**

○その企画で取材されるとしたら何月か。

**【オブザーバー】**

○9月から10月の初旬には取材する。

**【部会長】**

○施設系をお考えか。通所や訪問事業所もあるが。

**【事務局】**

○取材対象は決まっていないが、たくさん訪問すべきであることと予算の兼ね合いを見ながら、一企画として有効なものになるかを判断している最中である。

以上